

(1) 防災・福祉・健康

安全で健やかに暮らせるまちづくりを進めます。

地震や集中豪雨といった自然災害や新型コロナウイルス感染症のパンデミックなど市民生活を脅かす危機事態は、多様化・複雑化・激甚化しています。市民の自助に対する意識の定着化と、地域力を生かした共助の仕組みづくりに基づく危機管理体制の実効性を高めながら、あらゆる事態を想定した対策を進めることで市民の命と財産を守ります。

健やかに暮らすには、健康であることが求められます。「しまだ健幸マイレージ」の取り組みや健診などにより市民の健康意識を高め、まずは病気にならないことに力を入れていきます。また、病気になったときにも、安全・安心の砦「島田市立総合医療センター」とかかりつけ医の連携と役割分担により、市民の生命と健康を守ります。

団塊の世代が後期高齢者に達する 2025 年が到来し、本格的な超高齢社会に突入します。また、高齢者のみの世帯や高齢者の単身世帯の増加、地域コミュニティの希薄化などにより、介護、障害、生活困窮といった様々な課題を抱える人が増えてきています。すべての市民が、住み慣れた地域で自分らしくいきいきと生活するため、地域住民と事業者、関係機関が連携した「お互いに支えあう社会＝地域共生社会」の実現を目指します。

【施策の柱】(まちづくりの素材)

- ここに住むすべての人の安全な生活を守る（危機管理・防災・消防）
- 健康で自分らしく暮らす（健康づくり・地域医療）
- 生涯を通じて誰もが生きがいを持ち安心して暮らす（高齢者・介護）
- 互いに支え合い、いきいきと幸せに暮らす（地域福祉・障害福祉）

(2) 子育て・教育

子育て・教育環境が充実するまちづくりを進めます。

未来の島田を担うのは子どもです。このまちで子育てしたくなる、子どもにも親にも優しい子育て応援都市を目指し、「切れ目ない」支援を一層充実させるとともに、子どもを中心にまち全体で子育てを応援する機運を高めていきます。

家庭・地域・学校が一体となって地域の教育力向上に取り組むとともに、地域の特色を生かした学習を推進することで、子どもの「地元への愛着心」「市民としての誇り」を高めていきます。また、子どもにとって一番身近な大人である親の「親力」の向上を図ります。

GIGAスクール構想で整備した校内通信ネットワークと1人1台端末を活用し、デジタル社会で活躍できる子どもを育てます。また、安全・安心に学校生活を過ごせるよう、学校施設の適切な管理運営に努めるとともに、子ども一人ひとりの個性や特性に寄り添い、誰もが平等な教育を受けられる環境をつくります。

いつでも、どこでも学習活動に取り組めるよう、ライフステージに応じた多種多様な学習機会を提供し、学んだ成果を社会活動に役立てることのできる場を設けていきます。また、青少年が地域社会の一員として自立、活躍できるよう、家庭や地域が関わりを持ちながら、未来の島田を担う人材に育てていきます。

市民の健康づくり・体力づくりを目的に、「市民ひとり1スポーツの実現」に向けて、子どもからお年寄りまでの誰もがスポーツに親しむことができる環境づくりを進めます。

【施策の柱】(まちづくりの素材)

- 子どもを生き育てやすい環境をつくる（子育て）
- 地域ぐるみの教育環境をつくる（学校支援・子ども支援）
- 豊かな心を育む教育を進める（義務教育）
- 地域で学びの力を発揮する人材を育てる（社会教育）
- 生涯スポーツを楽しむ人を増やす（スポーツ活動）

(3) 経済・産業

地域経済を力強くリードするまちづくりを進めます。

世界を震撼させた新型コロナウイルスの影響は、当市においても飲食業や観光業をはじめ経済活動に大きな打撃を与えました。一方で、人々の生活様式や価値観、働き方に大きな変化をもたらし、いわゆるニューノーマルに対応した柔軟なアイデアと行動力が新しいビジネスチャンスを生み出し始めています。

そのようなチャンスをつかもうと起業を志す方のサポートや、中小企業の経営革新の支援、さらに、多様な働き方の支援やU・I・Jターンの促進による地域経済を支える人づくりに取り組んでいきます。様々な分野でのデジタルトランスフォーメーションが急速に進む現在、中小企業もデジタル化を進めなければ、淘汰される時代が訪れています。事業者のデジタルリテラシーの向上を図り、地域経済の発展につなげていきます。

中心市街地は、商業の中心であるとともに、ワクワクする空間であるべきです。リノベーションによる個性的で魅力的な個店づくりや公共空間の活用により、歩いて楽しめる「ウォークアブルシティ」を形成し、にぎわいを創出します。

就労者の減少が顕著である農林業は、言い換えれば、最も労働生産性を上げなければならない産業と言えます。歴史ある農林業を次の世代につなげていくために、農地の集積・集約などを進めることで、持続可能な産業にしていきます。

また、茶業を取り巻く状況はかつてない危機を迎えています。まちの誇りである「島田のお茶」の素晴らしさを、今一度市全体で共有し、茶業界に携わる人だけでなく、市民総出で応援していきます。

観光は、当市の強みになり得る分野です。地域資源・観光資源を磨き上げ、その魅力を最大限に引き出すとともに、デジタルマーケティングによる効果的な情報発信により、多くの人を訪れるまちにしていきます。

商工業・農林業・観光のすべての産業で「稼ぐ」をキーワードに、持続可能な地域経済を目指します。

【施策の柱】(まちづくりの素材)

- 地域で働く人を増やし、地域経済を発展させる（地域経済）
- 世界に誇れる技術を持った中小企業を育てる（中小企業支援）
- 商店街や個店を支援し、地域のにぎわいを生み出す（にぎわい創出）
- 地域の特色を生かした農林業を進める（農業・林業）
- 地域の魅力を生かした観光振興を図る（観光）

(4) 環境・自然・生活

住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくりを進めます。

2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする脱炭素社会の実現を目指し、日本全体が動き始めています。環境分野については、その課題が大きいからこそ、一人ひとりが地球人としての意識を持ち、行動することが求められています。

当市も2021年に表明した「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、エネルギーの地産地消、省エネルギー、資源のリサイクルやごみの減量を推進し、環境負荷の低減を市民と共に進めていきます。

また、当市の発展の礎でもある、森林資源・水資源を守り、生かしていきながら、水とみどりに恵まれた豊かな自然環境を保全し、後世に引き継いでいきます。

良好な住環境の中で事故や犯罪に遭うことがなく安心して快適に、市民誰もが「住み続けたい」と思える住環境の形成に取り組みます。また、市民の通勤・通学・通院などを支える公共交通網については、地域の実情に合わせながら構築に努めます。

性別、年齢、国籍等にかかわらず、一人ひとりが尊重され、互いに認め合い、協力して暮らせる「共生社会」の実現を目指します。

【施策の柱】(まちづくりの素材)

- 地域循環共生圏を形成する(脱炭素社会・循環経済・分散社会)
- みどり豊かな自然を守り育む(森林環境・農地保全・緑化活動)
- 水資源と水環境を守る(水環境)
- 住みよい生活環境をつくる(住宅・防犯・公共交通・交通安全・消費生活・人権・男女共同参画・多文化共生)

(5) 歴史・文化・地域

歴史・文化がかがやく、人が集まるまちづくりを進めます。

大井川川越遺跡や諏訪原城跡といった歴史資源を、保存するとともに観光資源として活用することで、まちの活力につなげます。また、文化活動のすそ野を広げ、文化芸術の恩恵をすべての市民に届けます。

どんなに素晴らしいものがあったとしても、それを知ってもらわなければ、訪れたり、買ったりという行動にはつながりません。全国的に見れば、島田市はまだ、あまり知られていないという事実を謙虚に受け止め、「島田市緑茶化計画」を旗印にシティプロモーションを展開するとともに、機会を逃さない柔軟な発想で、より多くの人に「島田を知ってもらう」を目指します。

当市の持つ豊かな自然や、歴史・観光資源、充実した子育て環境などに魅力を感じ、深く関わりたい、暮らしたいと思う人を増やし、大切にしていきます。また、中山間地域ならではの魅力を感じ、そこでの暮らしを望む人が、いつまでも暮らし続けられるように、持続可能な中山間地域づくりを目指します。

【施策の柱】(まちづくりの素材)

- 培われた歴史・文化で地域への理解と愛着を深める（歴史・文化）
- 島田を知り、好きになってもらう（情報発信・シティプロモーション）
- 誰もが暮らしたい、関わりたい、魅力ある地域をつくる（移住・関係人口）